

通信『風の通り路』は今回でなんと100号です！少し前から「100号記念はやっぱり八ヶ岳を取り上げたい、できれば主峰の赤岳を」と計画を温めていました。ペンションを始める前、夏の一ヶ月近く、八ヶ岳のいろいろな登山ルートを歩いたことがありました。もう30年近く前のことです。もう記憶もおぼろげですが、時間をかけ、ゆっくり慎重に登れば行けるのでは？ともかく無理しないことを肝に銘じ、決行しました！

## 風の通り路100号記念

# 八ヶ岳 赤岳に登りました

6月17・18日 午前7時50分出発。八ヶ岳高原道路（鉢巻道路）に入り、30分程で美濃戸入口に到着です。ここから未舗装の林道を徒歩なら1時間、車なら10分ほどで駐車場のある美濃戸の赤岳山荘。



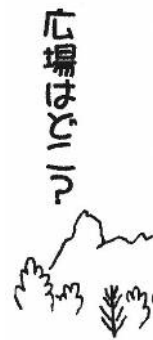
## 風の通り路

山梨県北杜市小淵沢町10122  
0551(36)3826 ペンション風路

### こげんがの山荘へ

山荘の前に南沢登山道入り口の標識があり、ここから本格的な登山道です。すぐに砂防堰堤に駆けられたパイプ製の

のハシゴに登り堰堤を越えるとその先が南沢沿いの登山道です。まもなく溪流に架けられた橋を渡り南沢の左岸に出ました。この先数回、新しく付けられた橋を渡り左岸から右岸へ縫うように進みました。しばらく登っていくと、なんと雨！ここ数日天気予報とにらめっこ、一番晴天の確率が高そうと今日にしたのに、とちよつと恨めしく思いつつ、雨具の上着だけを着て黙々と歩き続けます。



こげんがの山荘

以前スノーシューで来たときに、大同心・小同心が望める広い河原があったはず、そこで休憩にしようと思うのですが、なかなか辿りつきません。道もかなり変わっている

ようで、沢沿いには大きな石がゴロゴロ、左側にあった赤いテープが目にとまり、それに添って進んだものの、行けども行けども広場はなく迷ったのかと少し戻ったりしてしまいました。ちょうど上から降りてきた登山者に尋ねると「この上をまっすぐ進めば樹林の向こうに行者小屋が見えてきますよ」そうかつ勇氣百倍、気を取り直して登っていくとやっと思覚えのある河原に到着。ちょうど雨がやみ、

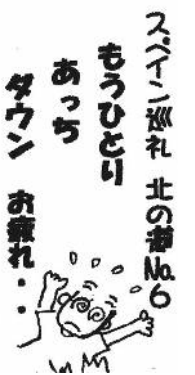
雲がさくつと流れて大同心も見えてきたではありませんか♪また樹林の中に入り、しばらく進むと小屋の脇に飛び出しました。

ここままで、もう標準タイムの2倍近くかかっています。ちよつと弱気になって、引き返そうかという気持ちもうつすらと・・・しかも「行者小屋にいたらお昼にしよう」「何か食べるものが変えたら」と思っていたら小屋は閉鎖中。仕方なく行動食に持っていたアンパンをかじり、30分程休憩したら、少し元気に

なり、初志貫徹の気持ちがあわくむくと湧いてきました！小屋のテラス脇の水場の水をペットボトルにつめ、いよいよ地蔵尾根へ。

### 地蔵尾根の難所

地蔵尾根は今回初めて登る登山道です。ガイドブックには、「始めは針葉樹林帯の登りだが、上部はクサリとハシゴが連続する難所」「急峻な岩稜、ザレ場が続くのでスリッパ、転落、落石に十分注意」などであり、内心穏やかではありません。ただ、雨や雪でなければ慎重に登ればそれほど危険ではない、というような記述も。ところが、樹林帯に入ってもしばらく登ったところでまた雨です！しかも次第に本降りに(泣)。さらにパ



スペイン巡礼 北の道No.6  
もうひとり  
あっち  
ダウン お疲れ

さて、パスタをゆでてトマトソースとからめて、白ワイン(チャコリ)でデイナー。パスタは量が多い！後から半分だけゆでて残りはこれから来る人に残しておけばよかったね、と反省。味は美味しいのに、だいぶ残してしまいました・・・チャコリを高いところから注いだらみごとこぼし、あわてて拭きました！

次の日の宿もなかなか見つかりません。周平は疲れ果てている様子。「ここで休んでいて」「探してくるから」と言って歩

ラパラという音、よく見ると雨粒が小さな丸い氷の塊になっています。ひえっこれは霰？霰？でも幸いまもなく止んでくれました。

### さらに登っていくと見上げるような垂直の壁に5段階に分かれた大きな梯子が現れました。「これか！」ここから

岩稜帯のハシゴとクサリ場の始まりです。必死で登るしかありません。やっと思切ったと思つてほつとしたのも束の間、またクサリ、ハシゴの連続です。この間は写真を撮る余裕もなく、緊張しまくり。

いていくと民家にセニョーラが車で帰ってきたところ。ホテルかオスタルがこの辺にないか？身振り手振りで尋ねると、先に立って歩いていき、立派な門を入り、中庭にいたご婦人になにやら話しています。どうやらここは宿のようで泊めてもらえそう。家の中に入るように言われているみたいなので、「ワンモアパースン、オーバーゼア、ダウン、タイヤード」などと怪しい単語を口走ると、「OK、連れていらつしやい」という感じ。通じたのかな？15分程手前の草むらでへたりこんでいた周平を遠くから見つけて両腕で丸印。転がり込んでベッドで爆睡。部屋はとつてもきれいでフレンドリーな女主人、素晴らしい宿でした。

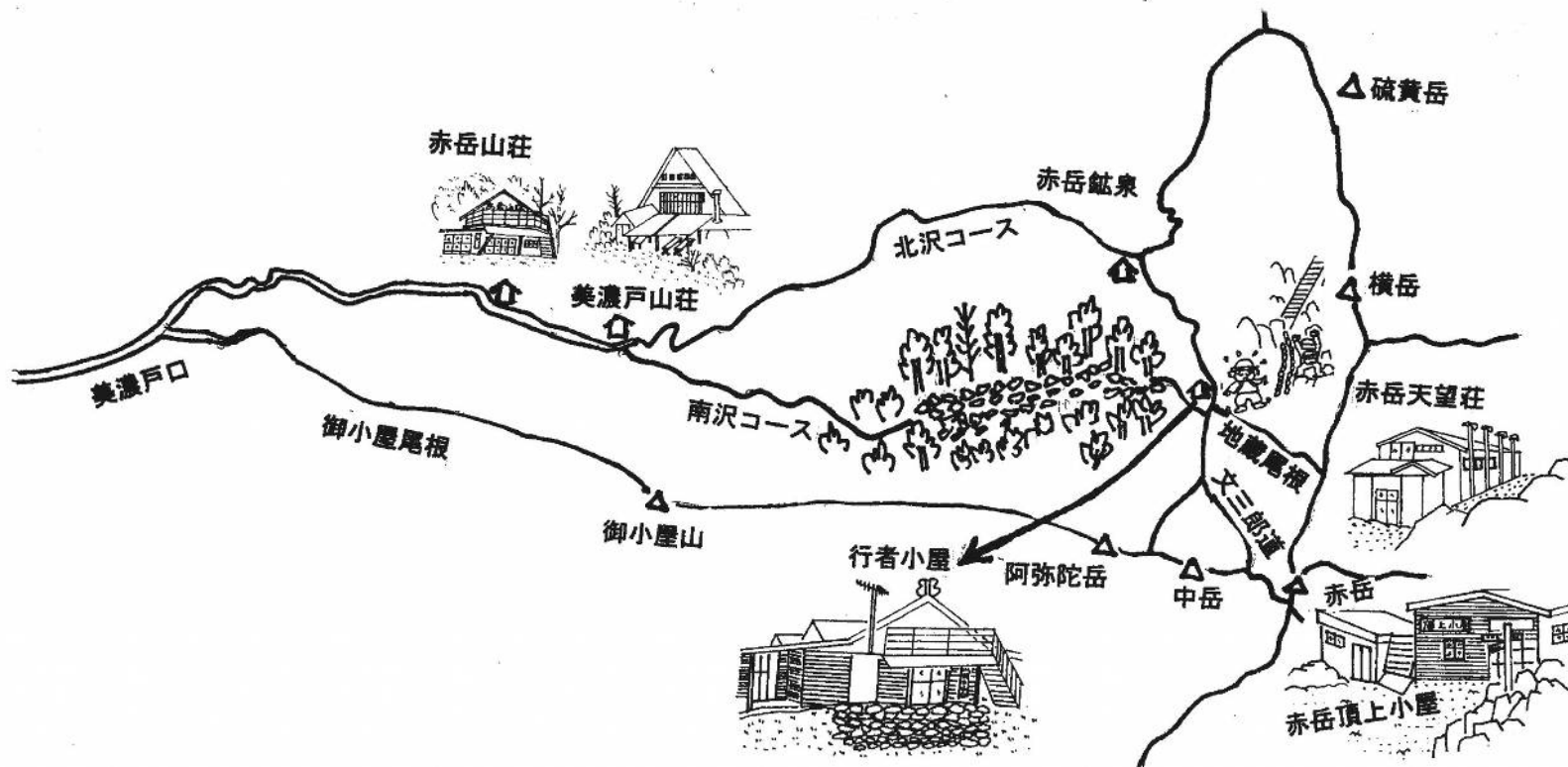
ただ、この難所に差し掛かる前に雨がやみ、日差しまで出てきたのには本当に救われました。

### 赤岳天竺堂に到着

難所の岩稜帯を登りきるとこの尾根の名称になっているお地蔵様が現れました。無事にここまで来られたことのお礼をしつかりしたことは言うまでもありません。その先が赤岳から横岳に向かう八ヶ岳主稜線を示す標識のある地蔵の頭で、標識に沿って赤岳方向に進むとほどなく赤岳天竺堂。ヨレヨレになりながらもうらへつづく

表からつづく  
なんとかここまでこられました。  
午後4時過ぎでした。

奥の小屋の食堂兼事務所で  
宿泊手続きを済ませ、手前の  
宿泊棟に移動。入ると手前に



談話室、その奥が宿泊スペースで、ほとんど2ベッドや2段ベッドの個室のようです。

午後5時、夕食開始の放送があり、食堂へ。丸ごとの鳥の唐揚げ、吸い物、かやくごはん、香の物等でした。缶ビールも1本♪これまで山小屋では、軒や人の気配でほとんど眠ることができなかったのですが、ここは個室のせいですが3時間程は寝られました。



翌朝午前4時起床。眼下には見渡す限りの雲海です。その上に太陽が昇ってきました。

美しい・・・遥かあなたに富士山が浮かび、僅かに頭だけを雲の上に出している峰々が連なっています。尾根の反対側は南アルプス、それから雪を被った北アルプスの高峰も望めました。標高2700mの稜線に建つ赤岳天望荘、さすがに涼しいを通り越して寒い。尾根の棧に雨が凍り付いて光っていました。

正面に赤岳が名前の通り、太陽の光を浴びて赤く染まって聳え立っています。今日はあのでっぺんを目指します！午前5時50分、天望荘を出発。すぐに赤岳へ上る岩場の登山道です。以前の記憶はも

うあいまいですが、こんなに急登で、クサリ、クサリだったかな？ともかくクサリとゴロゴロの岩にしがみつきなから登っていきます。やっとのことで山頂手前のピークに着くと正面に赤岳頂上小屋の建物が見えてきました。頂上小屋のある赤岳北峰に到着。一息入れてから南峰へ向かいま

した。ちよつと下って登り返したところが南峰です。



ついに、八ヶ岳の最高峰、標高2899mの地点に立ちました！赤岳神社の社が建っています。このころには眼

下一面の雲海はほとんど晴れ、横岳・阿弥陀・蓼科山など八ヶ岳の稜線から山麓一帯の深い緑の樹林や野辺山方面の広大な畑など、素晴らしい展望をゆっくり楽しみました。最初は私たちだけの「貸し切り」でしたが、次々に登頂してくる人たちがやってきて、写真を撮ってもらったりしたあと、いよいよ私たちは下山です。

この文三郎道が思いのほか厳しいものでした。赤岳山頂から見下ろす行者小屋へまっ

すぐに下っていく道と思って

いたのですが、それがまったく記憶違いで、ちよつと赤岳の南壁を巻くように道はつけられていたのです。しかも頂上からしばらくは険しい岩場です。おそろおそろ下つていくと、中山の手前の鞍部に行者小屋方向への分岐。ここま

で来ると遥か下方に行者小屋が見え、ちよつとホッとしたが、そこらが長かった！しばらくは、ガラガラの砂利と岩の登山道。でもその後の階段はゆっくり下ればなん

こか大丈夫。それにしても長い！足腰、膝がへたってくるころ、砂利と石の下山路にハイマツ、シヤクナゲなどの低灌木が現れ、ほどなくシラビソ、ダケカンバ、ユメツガなどの樹林帯に入ると、ようやく急な下りは終わりを告げ、樹林をぬけて行者小屋前の広場にたどり着きました。

もうへろへろでベンチにへたり込みました。天望荘で作ってもらったお弁当がありがたい！標準タイムではお昼過ぎには美濃戸に着くようですがそれはきつと無理と、お弁当を頼んでおいて本当に良かったです。おいなりさんにかぶりつき、水場の旨い湧き水をゴクゴク飲みました。昨日から歩いてきた稜線をぐるっと見渡して「よくあるいてきたなあ」

実感！  
「いよいよ下山できた」

さあ、あとは来た南沢の登山道を下るだけだ。・・・ホツとしたのは、大間違い。下りの南沢登山道は、台風等で道が荒れ、相当変わったようです。樹木に付けられた赤いテープの目印を頼りに下りていきますが、得意な緩やかな下りのフカフカ道は、ほんの少しで、ほとんどが石のゴロゴロ道。またしてもなんとなく怪しくなってきました。行けども行けども見覚えのある道出ません。途中で写真を撮っている男性に道を尋ねました。

「このまま下つていけば砂防堰堤に出て右岸に渡る橋があるからそれを渡れば、美濃戸山荘はすぐ」とのこと。疲れしているせいか、そこからも遠かったですが、ヨレヨレになりつつも砂防堰堤までたどり着き、堰堤に架けられたパイプの橋を渡ると美濃戸山荘！駐車場に辿り着くや周平は車のシートに倒れこみ「ちよつと休む」と言つてすぐ仮眠。私も助手席でウトウト。

ピツタリ15分で目を覚ました周平「さあッ帰ろう！」『風の通り路』100号記念の八ヶ岳赤岳登頂を目指した今回の山行はなんとか無事達成!!